

7/21 楽しみながら税を学ぶ

阿蘇郡市の小学生たちが租税キャンプ



税の仕組みを説明する法人会青年部会員

阿蘇郡市の若手経営者でつくる阿蘇法人会青年部会(杉本素一郎会長・約59名)が古代の里キャンプ村で『ありがとうからの租税キャンプ』を開催し、阿蘇郡市の小学生32名が参加しました。

税の大切さを子どもたちに伝えようと昨夏に続き開催したもので、子どもたちは税に関するクイズやレクリエーションを通して楽しく税を学びました。

キャンプ中、子どもたちは税の有効な使い道話し合い、8月7日には市役所を訪れ佐藤市長にまちづくりなどに関する提言を行いました。

7/6 阿蘇を世界文化遺産に

世界文化遺産登録に向け知事と県議会に要望



左から藏原議長、北里町長、佐藤市長、蒲島知事

阿蘇郡市世界文化遺産登録事業推進協議会長(佐藤市長)と阿蘇市町村議長(北里小国町長)、阿蘇市町村議長(藏原議長)が県庁を訪れ、阿蘇の世界文化遺産登録に向けた取り組みに関する要望書を蒲島知事と坂田県議会議長に手渡しました。

阿蘇地域を次世代に継承するため、公共事業における景観配慮や貴重な阿蘇の文化的景観を保全する取り組みについて、より一層協力してもらうよう県に要望しました。また、同様の取り組みを県から国に働きかけてもらうようお願いしました。

7/24 地域貢献活動に感謝

佐藤企業・三州建設と味岡建設・技研日本に感謝状

市道を無償で補修・舗装工事をしたとして、国道57号北側復旧ルート建設工事に関わる佐藤・三州地域維持型建設共同企業体(熊本市)に佐藤市長と的区の山本直樹区長から、味岡・技建日本地域維持型建設共同企業体(球磨郡)に佐藤市長から感謝状が贈呈されました。

佐藤・三州地域維持型建設共同企業体は、地震後、国道57号の迂回路として交通量が増加した市道「的区石車線」で、地的的の要望を受け、当該路線の消えかけていた外側線約3600以上の施工を無償で進め、通学児



佐藤・三州地域維持型建設共同体と的区長(右)



味岡・技建日本地域維持型建設共同企業体

童などの交通安全対策に努めていただきました。

味岡・技建日本地域維持型建設共同企業体は、経年劣化により路面の傷みが激しかった市道「赤水殿村6号線」において地元赤水区の要望を受け、当該路線約1700以上の舗装工事を無償で進め、市民の生活環境の改善に努めていただきました。

二つの企業体が地域に貢献した顕著な功績に対し今回の感謝状の贈呈となりました。



7/26

7/28

神々をたたえ豊作願う 国造神社と阿蘇神社で農耕祭事『御田祭』



WebTV アソ
動画

国造神社で神輿を担ぐ駕輿丁

国指定重要無形民俗文化財である阿蘇の農耕祭事の一つ、『御田植神幸式(御田祭)』が7月26日に国造神社で、28日には阿蘇神社で行われました。

それぞれの神社で神事が行われた後、神職や早乙女を乗せた馬や白装束で神様の食事を運ぶ宇奈利、神様が乗る神輿を担ぐ駕輿丁、田植え人形を持った小学生などの行列が集落や青々しい田園の中を練り歩き、五穀豊穣を祈願しました。

行列の近くでは、観光客やカメラマンなど多くの人達で賑わいました。



WebTV アソ
動画

阿蘇神社の参道で神様の食事を運ぶ宇奈利

8/5

北外輪山に伝統の扇

狩尾の扇保存会が扇切り作業



北外輪の斜面に浮かぶ扇

狩尾の扇保存会、鎌倉昭幸会長(21名)が北外輪山の斜面に草を刈り取って描く「扇」を製作しました。

狩尾の名物として知られるこの扇切りの伝統は100年を超え、幾度か途絶えたものの、地域の有志らがまちおこしのためにと40年ほど前から再開し継承されています。傾斜が60度もある原野で危険を伴う作業の中、標高750㍎の緑美しい山肌に、横70㍎の日の丸模様の扇が見事に完成しました。

扇は阿蘇谷の中央部付近から望むことができます。

8/4

家族で阿蘇を体験学習

『夏のジオサイトと阿蘇火山博物館』開催



杵島岳から阿蘇谷を望み阿蘇の成り立ちについて学習

阿蘇の自然の素晴らしさを学ぶ体験イベント『夏のジオサイトと阿蘇火山博物館』が杵島岳と阿蘇火山博物館で開かれ、市内外の家族ら約30名が参加しました。

阿蘇の自然環境を維持する「ASO環境共生基金」の体験事業として毎年開催している自然学習会で、参加者は杵島岳を登山し火山活動や自生する生き物についてガイドから説明を受けました。下山後は火山博物館で、カルデラを作る実験やジオラマなどを使って阿蘇火山の誕生について学びました。

8/6 廃材でリサイクル工作

婦人会による『eco スクール in ASO』開催



トイレットペーパーの芯でマグネット作り

阿蘇市地域婦人会(神保京子会長)主催による『エコスクール・イン・ASO』が古神地区地域学習センターで開かれ、一の宮小学校の児童や地域住民約10名が参加し交流を行いました。

防災・リサイクル交流を目的に夏休み期間に6回に分けて実施している取り組みで、第4回目は、リサイクル工作としてトイレットペーパーの芯を使ったマグネット作りに挑戦しました。災害時に役立つハイゼックス(炊飯袋)についての説明もあり、参加者は楽しみながら防災知識を高めました。

8/6 大玉見〜つけた！

園児たちがブルーベリー収穫体験



自分で収穫した実は格別！

阿蘇内牧ファミリーパークあそびバに植えられたブルーベリーが実り、阿蘇中央幼稚園の園児30名とYMCA赤水保育園の園児11名が完熟した実を収穫しました。

同施設を管理するASOワークネットが、子どもたちに喜んでもらおうと毎年地元の園児を招待しているもので、園児たちは暑さも忘れ、夢中でブルーベリーの実を摘み取りました。

収穫されたブルーベリーは、お土産として園児に渡されたほか、市内の福祉養護施設にも届けられる予定です。

8/4~17 海外との架け橋に

阿蘇市国際ワークキャンプ2018



市役所を訪れたワークキャンプのメンバー

『阿蘇市国際ワークキャンプ2018』が実施され、フランス、スペイン、タイなどの諸外国と日本の学生合わせて9名が波野地区に約2週間滞在しました。

ワークキャンプとは、自ら労働を体験しながら現地の人々と交流し、新たな地域の魅力の発見や海外への情報発信を目的としています。学生たちは市内各地で積極的にボランティア活動やイベントへ参加し、地域住民との交流を深めました。波野小・中学校両校でも英語を交えた文化交流を行い、児童生徒たちにとっても貴重な経験となりました。

8/7 移住・定住者の促進へ

移住定住と空き家対策で大和ハウスと協定



大和ハウス工業 平尾熊本支社長 (右)

阿蘇市への移住・定住者の促進と空き家対策に向けて、市と大和ハウス工業株式会社熊本支社(平尾豊幸支社長)が協定を締結しました。

協定では、大和ハウスが展開する一の宮の森林リゾート住宅分譲地と市の空き家バンクを連携させた移住定住の取り組みや、大和ハウスの持つノウハウを活かした空き家対策などが想定されています。

今後は、大和ハウスが都市圏で開催する移住相談会にも市担当者が出席し、市の情報を積極的に発信していきます。



8/17 被災の心を阿蘇で癒す

YMCAのキャンプ場で『あそぼうキャンプ』



阿蘇の自然楽しみながらキャンプを満喫

（公財）熊本YMCAが主催する『あそぼうキャンプ』が熊本YMCA阿蘇キャンプ（車帰）で開かれ、全国から集まった小学生約40名が参加しました。

東日本大震災や熊本地震で被災した子どもたちを招いて毎年開かれているキャンプで、被災した心の傷を自然でケアすることを目的として始められ今回7回目を迎えます。

児童たちは、自然の中を散歩したり、水源探検や動物とのふれあいなど、阿蘇の自然を楽しみながら参加者同士の交流を深めました。

8/16 戦争の英霊を悼む

小野田町区の老人会が戦没者を慰霊



戦没者の墓前で慰霊する老人会の皆さん

小野田町区老人会（和田正次会長）8名が、区内の戦没者のお墓に参り、線香とお花を供え英霊を悼みました。

日中戦争以降の日本人の戦没者は約310万人と言われており、小野田町区でも第2次世界大戦で区内の11名が戦死されています。

同区では、昭和40年ごろから毎年8月16日にそれぞれの戦没者のお墓に参る慰霊が続けられており、犠牲となった先祖を悼み、繰り返しはならない戦争の記憶を子どもたちに引き継ぐよう活動が続けられています。

国際・全国大会出場結果

●サッカー 🏆 (7.17～7.24 / ブラジル リオ)

NEYMAR JR'S FIVE RULES

【ワールドファイナル3位】

島田 優依菜（武蔵丘短期大学2年 / 阿蘇中出身）

●テコンドー 🏆 (7.28～7.29 / 長野県松本市)

JOC ジュニアオリンピックカップ
第11回全日本ジュニアテコンドー選手権大会

【中学生有段の部2位】佐藤 太一（一の宮中2年）

【小学生有段の部3位】佐藤 響（一の宮小5年）

●柔道 🏆 (8.12 / 三重県津市)

平成30年度全国高等学校総合体育大会

【女子-70kg級5位】

嶋田 沙緒里（鹿児島県霧島市立国分中央高校3年 / 阿蘇中出身）

（敬称略）

広報あそ8月号に掲載しておりました第63回全国高等学校日本拳法選手権大会出場 上野 浩輝さんの学年に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

（正）阿蘇中央高校2年 ← （誤）阿蘇中央高校3年

8/19 59日間火を絶やさず

霜神社で『火焚き神事』始まる



火焚殿で火を灯す垂依里さんと介添えの廣子さん

国指定重要無形民俗文化財阿蘇の農耕祭事の一つ『火焚き神事』が始まり、霜神社で乙女入神事が行われました。

農作物を霜の被害から守り豊作を祈るこの祭事は、建磐龍命の家来「鬼八」の恨みを鎮めるために始められたと伝えられ、乙女揚げの10月16日まで火焚殿に祀られたご神体を温め続けます。

第2578代目と言われている今年の火焚き乙女は坂本垂依里さん（阿蘇小5年）が務め、介添えの祖母廣子さん（下役犬原）とともに、火焚殿で火を灯し、59日間の火焚きが始まりました。



WebTV アソ
動画